



『多職種協働による訪問看護を開始』

看護部長 黒澤 澄恵

人口減少や高齢化が進展する中、質の高いチーム医療を推進し、高齢化に伴って増加・多様化した医療ニーズを持つ人々を支えることが医療従事者の使命である。

平成28年度の病院目標である「政策医療」を達成するため「地域貢献」「地域連携」を行い「地域完結型医療」の推進に努めている。6月からは地域包括ケアの構築に向けて多職種協働による訪問看護を開始した。まだ開始されたばかりであるが、訪問回数は比較的重ねられている。

訪問看護チームは医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、事務職員で構成され、会議にて現在行っている活動内容の確認、内容の追加などを行っている。この会議は多職種のコミュニケーション構築の良い機会にもなっていると感じている。



これからも蘭藤院長を中心に職員一丸となり、地域に根ざした病院として、地域の皆様が安心して暮らせるために、住民の方々の大いなる力になることの出来る病院を目指して取り組みを拡大していくきたいと考えている。

基本理念

私たちはすべての患者さまとご家族に信頼され満足していただける確かな医療と生活支援をめざしております

基本方針

- 一 病院組織の運営と地域における役割を果たします
- 二 患者さまの権利と安全の確保に努めます
- 三 療養環境と患者サービスに努めます
- 四 診療の質の確保に努めます
- 五 看護の適切な提供をいたします
- 六 病院運営管理の合理化に努めます

目次 :

多職種協働による	訪問介護を開始	1
看護部長 黒澤 澄恵		
青年共同宿泊研修に参加して	2	
経理係 須藤 創		
ふれあい看護体験	2	
副看護師長 高松 哲子		
職員親交会の納涼会を開催	3	
親交会厚生部長 杉田 智宏		
東北六魂祭 2016 in 青森	3	
サンバ須藤		
(第2回)療育スタッフのためのスヌーズレン研修に参加して	3	
保育士 市澤 貞子		
地域医療連携室からのお知らせ	4	
外来担当医表	4	
病院案内	4	
編集後記	4	



青年共同宿泊研修に参加して… 経理係 須藤 創

今回、7月4日(月)～8日(金)までの5日間にわたって行われた青年共同宿泊研修に参加させていただきました。青年共同宿泊研修は国立病院機構に勤務する中堅職員を対象とし、研修施設での共同生活を通して職務の遂行に必要な対人交渉能力を身に付け、自覚と責任感・連帯感を培うことを目的としており、北海道・東北グループ管内の病院等から私を含め27名が参加しました。

研修初日は仙台医療センターにて開講式を行いました。

研修2日目からは舞台を福島県猪苗代町の国立磐梯青少年交流の家に移して行われました。2日目は「人間関係とコミュニケーション」と題した講義がありました。私自身これまで内容を分かったつもりでいても相手が思い描いているものと違うことがよくありました。この講義を通して「コミュニケーションとは分かち合う」ということを知り、相手のことを正しく認識して受け入れることの大切さを学ぶことができました。

3日目は「自己理解と他者理解」とのタイトルで自分と他者の価値観を通じて、価値観の違う人との対応方法を学びました。まずフィールドワークを通じて自分の特徴を理解したうえで他にどのようなタイプがあるのかを見聞きしましたが、性格が正反対なものもあり価値観の違いの奥深さを実感しました。そしてそれぞれのタイプの傾向をつかめば他者を受け入れやすくなるとの説明を受け、私も訓練して人間関係の幅を広げていきたいと思いました。

4日目は登山です。ただ当初の猫魔ヶ岳から、雄国沢登山口～雄国沼間を往復するコースに短縮しての実施となりました。研修2日目からの雨で登山道は足場が悪く、また山を登るにつれ、まわりは霧に覆われ視界のきかない登山にとってあいにくの状況となりました。それでも登山開始から下山まで約5時間かけて全員で全行程を制覇した時の達成感は一生忘れられないものとなりました。

そして最終日は閉講式が行われ修了証書を受け取り、5日間の日程は幕を閉じました。

今回の研修では猪苗代湖や磐梯山を望む環境の中、病院・職種を超えて多くの人たちと交流を深めることができました。私自身八戸出発時はさまざまな不安でいっぱいでしたが、閉講式を迎えたころには終了するという安堵感や登山達成等の充実感でこみあげてくるものがありました。八戸に戻ってからは試行錯誤を繰り返しながらも日常業務の更なる向上に取り組んでいるところです。最後に今回の青年共同宿泊研修の機会を与えていただいた関係者の皆様、本当にありがとうございました。



ふれあい看護体験 ……………… 副看護師長 高松 哲子

5月12日はフローレンスナイチンゲール生誕の日であり、「看護の日」です。この日を含む1週間を看護週間としています。そこで、次代を担う高校生が医療関係者及び患者さんとのふれあいを通して、看護することや人の命について、理解と関心を高める機会を提供する機会でもあります。また、看護に興味を持ち、看護の道へ進むことのきっかけや目標を持つ機会になります。

今回の看護体験は5月12日に行われました。前日、指導内容を確認しながら、自分が看護の道を志した頃を思い出し、どうしたら看護の楽しさ、やりがいを伝えられるのか考えました。今年は看護師になりたいと進路を決めていた目的意識の高い八戸西高校の10名が参加しました。口腔ケアの見学や、おやつ介助、ストレッチャーや疑似入浴体験、患者さんとのコミュニケーションを通して触れ合っていくうちに、緊張していた学生も、表情が優しくなり、笑顔になったことが印象的でした。患者さんを笑顔にする素晴らしい体験と貴重な時間を過ごすことができたと思います。10名全員が助産師を含め看護の道に進みたいと思ってくれたことは大変うれしく思います。実行委員会を通してスタッフの方にお礼を申し上げます。ご協力ありがとうございました。



職員親交会の納涼会を開催

親交会厚生部長 杉田 智宏

7月25日（月）に職員親交会主催による「納涼会」を開催しました。

はじめに、蘭藤院長より「冷たいビールを飲み、納涼会を楽しみましょう」とご挨拶がありました。

続いて、黒澤看護部長より乾杯のご発声をいただいた後、美酒・美食を楽しみながら談笑。

お酒も入り、にぎやかになったところで須藤宴会部長主催による余興が始まりました。まず全員参加で、各自が相談禁止の上で誕生日順に並ぶというゲームを行い、結果順番を間違えた4名が物真似の罰ゲームを行いました。その後行われたカラオケでは、院長を始め浴衣に着替えた美男美女（？）が美声を披露し、会場は大いに盛り上りました。

最後は、谷下田事務部長の一本締めで興奮冷めやらぬまま会はお開きとなりました。



東北六魂祭 2016 in 青森

サンバ須藤

6月25日（土）・26日（日）の2日間、青森市で「東北六魂祭 2016 青森」が開催されました。東北六魂祭は2011年に発生した東日本大震災からの復興を祈って東北各県の夏祭りが1年に1度集結するものです。2011年に仙台市で初めて開催されたのを皮切りに東北各県をまわり、6回目となる2016年は青森市での開催となりました。

私は夜のおまつりパレードを目的に6月25日に青森市に行ってきました。1週間ほど前から雨の予報が出ていたため雨が降らないよう願っていた日々でした。当日青森市には9時過ぎに到着しました。午前中雨がぱらついていた時間もありましたが、その後は晴れ間の出る時間が多く、少しほとしました。東北六魂祭はパレード以外にもさまざまなイベントが行われており、午前中から屋にかけてはメイン会場での開祭式をはじめグルメ広場やまるっと青森広場などを見てまわりました。

午後からはメインのパレードに向けて作戦を決行。2時ごろからコースとなる国道沿いに待機していましたが、すでに多くの人たちが場所取りをしていました。3時ごろから国道は通行止めとなり狙っていた前列を確保することができました。そして5時パレードがスタートしました。パレードには、青森ねぶた祭、盛岡さんさ踊り、仙台七夕まつり（すずめ踊り）、秋田竿燈まつり、山形花笠まつり、福島わらじまつりに加え、今回特別参加となる八戸三社大祭を合わせた7つの祭りが参加しました。ねぶた祭りの本番と一味違う独特の雰囲気の中でそれぞれの演技や踊りに対して手拍子や掛け声、拍手がずっと続きました。ノンアルコールビールやおつまみを味わいながら東北各地のお祭りを一度に観ることができた時間はとても優雅なものでした。また東北は1つという連帯感が感じられ、元気をもらうことができました。

今年の東北六魂祭の入出は2日間で27万人に達しました。今回の青森開催をもって現在の枠組みでの企画は終了し、来年以降は形を変えたうえで新たなイベントを実施することが発表されました。まだ復興は道半ばである上に6回で終わってしまうのはどこかもったいない側面があったので良い案でないかと思います。

この記事が掲載されるころには各地の夏祭りは終わりになっていると思いますが、来年以降東北各地の夏祭りに足を運んでみてはいかがでしょうか。



（第2回）療育スタッフのためのスヌーズレン研修に参加して

保育士 市澤 貞子

平成28年7月2日に、国立病院機構千葉東病院で行われた「第2回療育スタッフのためのスヌーズレン研修」に参加させていただきました。

スヌーズレンとは、1970年代後半オランダで生まれた1つの考え方として理念です。障害を多く持つ人々、高齢者、認知症の方々が受け入れやすい環境や刺激を提供し、それぞれの人が自分自身のペースで自分らしくその環境や時間を自由に楽しんだり、活動したり、また支援者と楽しみを共有したりします。支援者は患者様に対し指導的な立場でなく、心地よさ、安らぎ、楽しさを共有する者として関わることが基本です。

スヌーズレンでは、いろいろな効果が現れると言われています。

当院でも数年前から療育活動の中で行われてきましたが、当時は部屋がなく活動の度にスヌーズレン・グッズを移動させていました。新病棟では、D棟の療育プレイホールや心理療法室（スヌーズレン室）があるため、自由にスヌーズレンを楽しめる環境になっています。

研修では、基本的なスヌーズレンの考え方を理解することの大切さと活動の中では患者様の変化の「気づきの場」となるということを学びました。

今後も、療育活動の中にスヌーズレンを活かしていきたいと考えています。今回の研修に参加させて頂き、感謝致します。



地域医療連携室からのお知らせ

訪問看護を始めました

平成28年6月より訪問看護を始めました。当面、外来患者様を対象に訪問看護を行っていきますが、新規患者様についてもご相談を受け付けますので、詳細については地域医療連携室までご連絡をお願いいたします。

また、これを機に今後さらに地域連携を深め患者様やご家族のご要望に応えて行きたいと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。

診療援助日程 9月

青森県立保健大学 リウマチ科

渡部一郎教授 9月6日(火)、13日(火)、21日(水)、
27日(火)

東北大学 リハビリテーション科

上月正博教授 9月16日(金)

東北大学 呼吸器外来

山谷睦雄教授 9月13日(火)

診療時間、日程等が変更になる場合があります。

また次回以降については、地域医療連携室またはホームページにてご確認願います。

地域医療連携室 0178-45-3421

医事課 0178-45-6111(内線)4301・4311

外来担当医表

8月1日現在

診療科	月	火	水	木	金
内 科		山尾 陽子(月3回) 渡部 一郎(月1回)	蘭藤 順 (午前/予約)	関根 耕作(午前)	安ヶ平 みどり(午前)
神経内科	三須 建郎 (午前/予約)				
小児科		河原 仁志(午前)		河原 仁志(午前) 神田 進(午後/予約)	
呼吸器外来					安ヶ平 みどり(午前)
リウマチ外来		リウマチ外来は下記診療援助日程のとおり。			

午前診療受付時間 8:30～11:00 午後診療受付時間 13:00～15:30 小児科外来 8:30～11:30
・ただし急患については受付いたします。・担当医師については変更されることがありますので電話にてご確認下さい。

病院案内図



*バス利用の場合

- 1) JR本八戸駅より市営バス「是川団地行き」吹上栄町バス停より徒歩1分
- 2) JR八戸駅より南部バスで「八戸駅線」乗車「三日町」降車市営バス「是川団地行き」吹上栄町バス停より徒歩1分

*タクシー利用の場合

- 1) JR本八戸駅より10分
- 2) JR八戸駅より20分

編集後記

八戸の中心街には、キャラクターがたくさんいてとても楽しい。
横丁にはいると、「よっぽらいほやじ」がいて、笑ってしまった。
今度は、何にあえるかな?? HOYAJI

